

市民の目線で市民が発信する
地域情報紙

WEB SHIMIN

http://shimin.camelianet.com/

SHIMIN PRESS

市民プレス：第20号

発行人 特定非営利活動法人
「市民フォーラム」
編集人 原 昭 二
制作・印刷 デジタル工房
F A X 048 (476) 9111
〒 353-0004
埼玉県志木市本町 5-18-24

地域、市民の政治 地方の時代始まる

選挙で選ばれた県知事や市長たち地方の首長は、当選するや否や国の一機関に組み込まれ、変身させられてきた。このような明治以来の制度が、1999年の地方分権改革によって葬り去られたことは、まだ記憶に新しい。

地方自治法には、新たに国と地方の役割分担の原則が明示され、住民に身近な行政は、地方自治体に任せることが原則となり、一方国の仕事は、

選挙で選ばれた県知事や市長たち地方の首長は、当選するや否や国の一機関に組み込まれ、変身させられてきた。このような明治以来の制度が、1999年の地方分権改革によって葬り去られたことは、まだ記憶に新しい。

地方自治法には、新たに国と地方の役割分担の原則が明示され、住民に身近な行政は、地方自治体に任せることが原則となり、一方国の仕事は、

シリーズ「平林寺の四季」



- 感応殿の桜 -

写真：藤井教文

国土の利用計画も地方参加型に変わる！

「全総」(全国総合開発計画)は、戦後の開発行政を牽引してきた指針で、69年に作成された「新全総」は、高度成長を背景として各地で大規模事業を推進した。しかし工業基地事業で破たんを招き、東京の都市機能の強化を掲げた87年の計画で、地価は高騰した。

国土交通省は、「全総」の基本をなす国土総合開発法(国総法)を、既存の施設を有効に利用する脱開発型に改めるため、新たな法案を3月はじめ

埼玉県と理化学研究所(和光市)との包括的な協力始まる

去る一月二十日、上田清司埼玉県知事は、独立行政法人「理化学研究所」(略して理研、本紙5、12号参照)を訪れ、野依良治理事長と「包括的協力協定」を締結した。調印式には野木実和光市長も出席した。このような協力関係は全国的に見ても珍しい。

この協定は、自然科学の研究機関として国益を掛け、先端的な研究成果を次々に挙げている理研が、埼玉県の科学技術基

に国会に提出する。

名称を国土形成計画

(仮称)に改め、都道府県等による提案制度及び広域地方計画の創設等を行うほか、国土利用計画、各大都市圏の整備に関する計画及び各地方の開発促進計画との調整のため所要の改正等を行う。

新計画では、地方が計画作りに参加する仕組みが導入され、中央官庁主導の開発型の計画から、低成長、人口減少の時代に対応した地方参加による政策転換を目指す。

理研の研究が社会に還元されるよう、県は地域に対して新しい産業の創出を支援する。また県

は、理研が所在する和光市域の国際的な環境整備に努め、例えば、理研で働く外国人の在留資格要件の規制緩和など特区構想を挙げて、相互の連携、強化を目指している。

この協定の成果を挙げるための前途には課題が少なくないが、これを乗り越えて、地域の活性化に貢献することを望むものである。

公開シンポジウム「変われ！地方自治」

志木市の生涯学習事業「いろは市民大学」は、地方自治の転換期に、自治体や市民は如何に対応すべきかをテーマとして二月十二日、志木市民会館で標記のシンポジウムを開催した。パネリストとして上田清司埼玉県知事、穂坂邦夫志木市長を招き、コーディネーターは市民大学の学長を委嘱されている白鷗大学福岡

上田清司県知事は、就任してから取り組んだ県の改革について具体例を挙げて説明し、新たな発想が、長い間に培われ

てきた官僚の仕事振りを見直し、無駄な経費を削減した実績を語った。また地域経済を活性化したことも強調。穂坂市長も、市の職員の意識改革のための努力について述べた。一方福岡教授はパネリスト二人の本音を引き出しつつ、変革すべき地方自治についてのご自身の考えを率直に市民に訴えていた。

このシンポジウムで特筆すべきことは、手話と要旨の手書きの投影が加えられ、視聴覚の援助が行われたことで、会場の暖房は十分でなかったにも関わらず、熱気こもった討論が繰り広げられた。数百人にのぼる参

「観光都市にいざづくりシンポジウム」開催

昨年11月から、新座市観光都市づくり推進市民会議(本紙19号)は二回

見送ったため、選出後に新市長が改めてこの問題に取り組むことになるだろう。

◆本紙19号の巻頭の写真「平林寺山門に降る雪」の説明文で、

◆ 凌雲閣
○ 凌雲閣(りようしようかく)

謹んでお詫びします。

訂正とお詫び

◆前号で報道した朝霞市主催の市民参加によるシンポジウム「基地跡地の有効利用を考える」は、期日の直前になって無期延期された。

その経緯は、パネリストとして討論をリードする筈であった塩味達次郎市長が、近く告示される次期市長選挙への出馬を

加者の中には、熱心にメモを取る方も少なくなかった。



開催されたが、その間に先進的な取組みで著名な神奈川県大和市の視察を行い、また三つに分かれた部会では、それぞれ具体的なビジョンの策定に努めている。

新座市では、将来像を考える公開のシンポジウムを2月27日市民会館において開催した。

基調講演「観光都市づくりをめざして」

講師・安島博幸立教大学教授ではじまり、パネルディスカッションが行われた。また新座少年少女合唱団の合唱が彩りを添えていた。



その19

古文書から見た石原弥五郎

郷土史家 安齋 達雄

明治の古文書をみてい

ると、よく石原弥五郎という人物に出くわす。頂点に立つ指導者というわけではないが、重要な局面で登場し、実質的にものごとを処理している印象をうける。どんな人物だったのだろうか。

石原家の過去帳

石原家といえば、上宗岡の細田氏、中宗岡の木下氏とならんで、江戸時代には下宗岡の名主役をほぼ独占してきた旧家である。名主とは、今でいえば村長とか町長などにあたる。

石原家のルーツは武家と考えられが、くわしいことは不明である。なぜなら、宗岡は水害の多い地域であったため、古い資料は失われてしまったからだ。石原家がかつて大応寺(現富士見市)の檀家であり、重要な古文書は大応寺に預けてあった。しかし、この貴重な資料も水の流れに消え

兵衛を「代目名主」と称している。聞きなれぬ呼称だが、何を意味するのだろうか。代々名主役を務めてきた家の出身であることを示したものののだろうか。それとも、引又宿に移ってから名主の代理を務めたからなのだろうか。

絵図にえがかれた家

何時、弥惣兵衛が引又宿に出てきたのかは分からない。考えあぐんで『志木市史』の近世資料編をめぐっていると、思いがけないことがわかってきた。個別的な文書をつないでみると、少なくとも天明五(一七八五)年から寛政元(一七八九)年三月までは、弥惣兵衛が宗岡村の名主であったことは確かだ。そしてなんと寛政元年四月の文書からは、代わって息子の弥次郎が宗岡村の名主として登場してくるのだ。

このことから類推すると、弥惣兵衛は寛政元年四月、数え年五十三歳の時に名主役を辞めた弥次郎に譲って引退し、それから間もなくして、新天地を求めて引又に転居したのではなかろうか。もちろん、弥惣兵衛はひとり引又に出たのではなからう。跡とりの弥次郎とは別の息子、弥五郎を連れてであろう。

また過去帳には、弥惣兵衛を「代目名主」と称している。聞きなれぬ呼称だが、何を意味するのだろうか。代々名主役を務めてきた家の出身であることを示したものののだろうか。それとも、引又宿に移ってから名主の代理を務めたからなのだろうか。

何故、そのようなことが言えるのか。さいわいなことに、志木市立郷土資料館には、志木市の文化財にも指定されている「引又宿絵図」が展示されている。これは当時の引又宿の名主星野半平が、文化十一(一八一四)年に筆写したものだ。それを見ると、星野半平の家から南に六軒はなれた市場通りに、石原弥五郎の家がえがかれているのである。引又の石原家は、文化十年の弥惣兵衛の死によって、弥五郎の代になつていったようだ。年代的にも、ぴつたりと合っている。

ところで過去帳から計算すると、弥五郎は弥惣兵衛が数え年十五歳の時の子となる。おそらく跡とり息子の弥次郎より年長であろう。想像をたぐましくすれば、弥五郎は弥次郎とは母を異にする子であったかも知れない。弥惣兵衛は、つらい立場の息子弥五郎を連れて、古巣の村から出て行ったのではなかろうか。

明治の弥五郎

志木(引又)の石原家は、上述のように初代が弥惣兵衛、二代目が弥五郎である。そのあと、三代目、四代目、五代目と当主がつづくが、六代目にまた弥五郎という名の当主が登場する。これ以

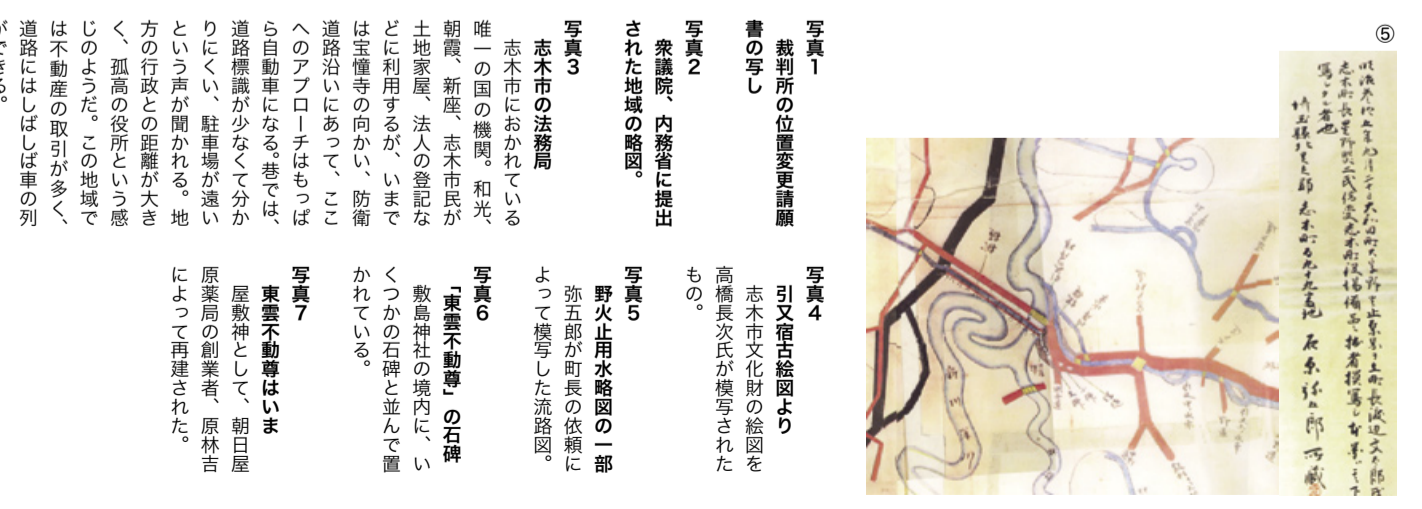
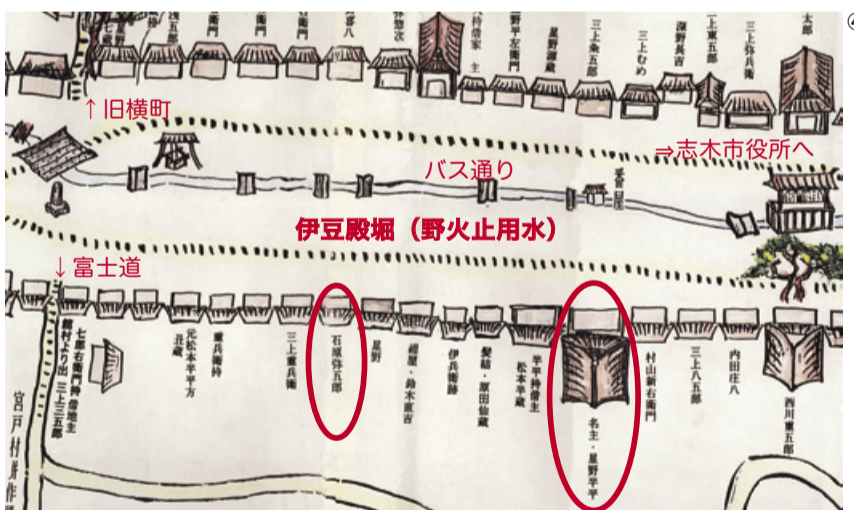


写真1 裁判所の位置変更申請書の写し

写真2 衆議院、内務省に提出された地域の略図。

写真3 志木市の法務局志木市におかれている唯一の国の機関。和光朝霞、新座、志木市民が土地家屋、法人の登記などに利用するが、いまでは宝幢寺の向かい、防衛道路沿いにある、ここへのアプローチはもっぱら自動車になる。巷では道路標識が少なくて分かりにくい、駐車場が遠いという声がかかる。地方の行政との距離が大きく、孤高の役所という感じのようだ。この地域では不動産の取引が多く、道路にはしばしば車の列ができる。

写真4 引又宿古絵図より志木市文化財の絵図を高橋長次氏が模写されたもの。

写真5 野火止用水略図の一部弥五郎が町長の依頼によって模写した流路図。

写真6 「東雲不動尊」の石碑敷島神社の境内に、いくつかの石碑と並んで置かれている。

写真7 東雲不動尊はいま屋敷神として、朝日屋原薬局の創業者、原林吉によって再建された。

降の記述は、すべて志木石原家の六代目当主の石原弥五郎(弥五郎として二代目)のことである。

その方面の才能もあつたようだ。

市神のゆくえ

この石原弥五郎は、血の気の多い人物であつたのかも知れない。明治十(一八七七)年、明治政府軍と西郷隆盛軍とのあいだで西南戦争が行われた。この戦いに弥五郎は政府側の徴兵として参加し、激戦にも加わつた。

明治四十四(一九一一年)、志木町では大きな請願運動が展開された。それに関わる文書の名は「浦和区裁判所大和田出張所位置変更請願書」。

市場には、市神(いちがみ)がまつられていることが多い。引又の市神は東雲不動(しののめふどう)であつたらしく、江戸末期に長らく名主を務めた星野半右衛門家の脇の路地を入つた小さなお堂に安置されていたという。

この星野家では息子の照二の時代に志木町長や助役を務めたが、家は明治四十三年ごろに星野家を離れ、一時警察署として使われたあと、明治四十五(一九一二年)に今の朝日屋原薬局のご当主の祖父の手に渡つている。平成十五(二〇〇三年)に国の登録有形文化財となつた朝日屋原薬局(本町二丁目の市場通り)の建物の主要部分は、このときに建てられたものである。

この原薬局の脇に、以前は正面に「東雲不動尊」、右脇に明治三十六年六月の日付が彫られた石碑がたつていた。その石碑は、現在、敷島神社の向かつて左手の境内に置かれている。

志木の石原家の墓地は宝幢寺にある。そこには、歴代の石原家の当主に混じつて二人の石原弥五郎の墓石がある。一つは

新座、志木、朝霞、和光市は、関東平野の南に在つて、この平野を構成する武蔵野台地の北部に位置している。

この台地の形成は二百万年くらい前に遡るといわれている。武蔵野台地の置かれていたのは、地盤の隆起が続く秩父山地と、逆に沈降を続ける平野との挟間である。秩父山地は、川の侵食によつて削られ、谷を発達させたが、一方、その東側の低い地盤は、地殻変動によつて沈降し、流れる川によつて土砂が堆積して形成された。このような隆起と沈降の歴史はいまも続いているという。

狭山丘陵は、七、八十年前ころ堆積した礫層と粘土層から成り立っている。狭山丘陵の北には加治丘陵が横たわり、また南には多摩丘陵がつながつて、武蔵野台地を取り囲む。

しかし一度引いた海は、そのあと再び拡大し始め、約五、六千年前には、大きな海進が関東平野一帯に及んだ。この海は「奥東京湾」と呼ばれ、川越付近まで海が入り込んだ。柳瀬川、黒目川などの谷も入江となり、内湾に住むカキなどの貝を食用とした縄文時代前期の人々の暮らしは、彼等が遺した貝塚や縦穴住居の発見から裏付けられている。河川の谷は、上流から運び出された泥や砂が入江の底にたまり、現在の荒川低地(沖積低地)を形成していった。

その後ふたたび海は沖に退きはじめ、弥生時代に入ると、沖積低地は陸化して、荒川などの河川は氾濫を繰り返した。

「地誌」 武蔵野台地

東京都の青梅市の方向から、狭山丘陵を越えて扇形に広がる武蔵野台地は、緩やかに下りつつ落差約百米で低地に移る。秩父山地から流れ出していた川(「古多摩川」と呼ばれている)によつて運ばれた多量の砂礫によつて扇状地を形成し、現在の武蔵野台地となつたのである。

そのため河川は延長され、浸食力が増して、それまで一続きであつた平野を切り離して谷をつくつた。武蔵野台地と大宮台地の間には荒川低地ができた。このころ富士山や箱根火山の火山活動によつて火山灰が降り積もり、武蔵野礫層の上にローム層を形成、これが堆積した時代は、旧石器時代に当たっている。武蔵野台地の各所で石器が出土していることから、人類が活動する舞台となつたことは確かである。

しかし一度引いた海は、そのあと再び拡大し始め、約五、六千年前には、大きな海進が関東平野一帯に及んだ。この海は「奥東京湾」と呼ばれ、川越付近まで海が入り込んだ。柳瀬川、黒目川などの谷も入江となり、内湾に住むカキなどの貝を食用とした縄文時代前期の人々の暮らしは、彼等が遺した貝塚や縦穴住居の発見から裏付けられている。河川の谷は、上流から運び出された泥や砂が入江の底にたまり、現在の荒川低地(沖積低地)を形成していった。

その後ふたたび海は沖に退きはじめ、弥生時代に入ると、沖積低地は陸化して、荒川などの河川は氾濫を繰り返した。



図2 縄文海進(奥東京湾)の模式図

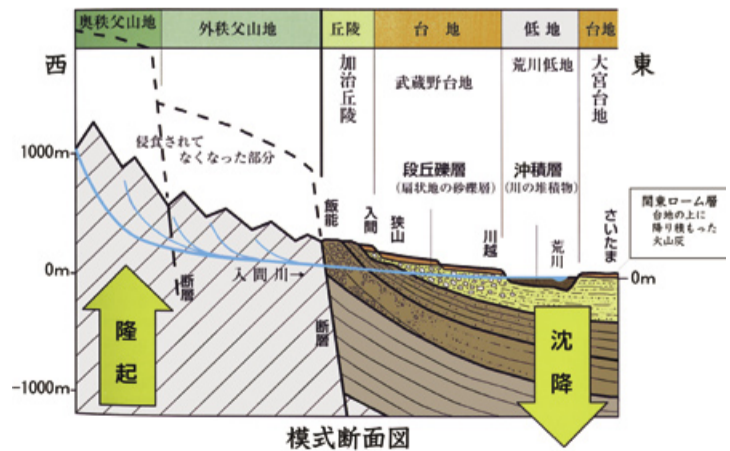


図1 武蔵野台地断面の模式図 (図1、2は入間川四市一村合同企画展 2004年の資料から作成)



図3 概念図 青梅市から狭山丘陵を越えて広がる武蔵野台地

また、市場通り振興策ともいべき数度にわたる「志木宿市場改良願」にも、世話人代表として名を連ね、果敢に県庁にはたらき掛けている。大正時代には代書業にも手を染めていることから、

石原弥五郎は、複数の関連文書を保管しているところから、各地域との折衝にあたるなど、重要な役割を果たしたようにも思える。志木町にとつては希望がかなえられ、大正二(一九一三年)、宝幢寺(ほうどうじ)内に「浦和区裁判所志木出張所(登記所)」が置かれた。これが、現在、宝幢寺横の防衛道路脇にある「さいたま地方事務局志木出張所」につながつ

た。それでは本体の東雲不動はどうなのだろうか。こまかな経過は不明な部分もあるので省略す

る。初代弥惣兵衛とともに志木(当時引又)に出てきた弥五郎(文政十三年一八三〇年に七九歳で死去)であり、もう一つは明治に活躍した弥五郎(大正十一年一九二二年に七十一歳で死去)である。二人の弥五郎は、静かなぬりについているだろうか。



「脱法ドラッグ」には近づくな!

若者を中心に広がりを見せ、麻薬や覚せい剤と同様の作用をもっている

も、法律で規制の対象とならない「脱法ドラッグ」

について、厚生労働省が動き始めた。薬事法、麻薬・向精神薬取締法の改正を視野に入れ、脱法ドラッグを厳しく規制する方針を固めた。

化学構造がわずかに違うだけで規制を逃れ、公然と売買されている実情を考慮して、類似する成分も対象とするよう、広く網をかけることを検討する。

脱法ドラッグには強い副作用があったり、習慣になつて止められなくなる場合もある。使用してから意識を失い、救急車で運ばれる、あるいは、これを飲ませて乱暴する、飲んだ少年が刃物を突きつけるなどの犯罪が起きており、社会を脅かしている。

東京都は、以前からアダルトショップなどから脱法ドラッグを買い集め、成分を分析し、健康に対する被害を調査、脱法ドラッグの有害成分、有害作用を詳しく公表、警告してきた。麻薬と疑われるときは、厚生労働省に報告して、その都度法律の規制が行なわれてきた。しかし、これまでは、法律で指定するた



め、成分を分析し、健康に対する被害を調査、脱法ドラッグの有害成分、有害作用を詳しく公表、警告してきた。麻薬と疑われるときは、厚生労働省に報告して、その都度法律の規制が行なわれてきた。しかし、これまでは、法律で指定するた

め、成分を分析し、健康に対する被害を調査、脱法ドラッグの有害成分、有害作用を詳しく公表、警告してきた。麻薬と疑われるときは、厚生労働省に報告して、その都度法律の規制が行なわれてきた。しかし、これまでは、法律で指定するた

め、成分を分析し、健康に対する被害を調査、脱法ドラッグの有害成分、有害作用を詳しく公表、警告してきた。麻薬と疑われるときは、厚生労働省に報告して、その都度法律の規制が行なわれてきた。しかし、これまでは、法律で指定するた

め、成分を分析し、健康に対する被害を調査、脱法ドラッグの有害成分、有害作用を詳しく公表、警告してきた。麻薬と疑われるときは、厚生労働省に報告して、その都度法律の規制が行なわれてきた。しかし、これまでは、法律で指定するた

め、成分を分析し、健康に対する被害を調査、脱法ドラッグの有害成分、有害作用を詳しく公表、警告してきた。麻薬と疑われるときは、厚生労働省に報告して、その都度法律の規制が行なわれてきた。しかし、これまでは、法律で指定するた

特定非営利活動法人 NPO「市民フォーラム」

この法人は地域住民と行政に対して取材活動を行い、報道によって市民の公共参加を推進し、地域内のメディア事業を行つて、市民のコミュニケーションを向上させることを目的としています。地域情報紙「市民プレス」はNPO市民フォーラムが編集・発行し、無料で配付します。

この法人は地域住民と行政に対して取材活動を行い、報道によって市民の公共参加を推進し、地域内のメディア事業を行つて、市民のコミュニケーションを向上させることを目的としています。地域情報紙「市民プレス」はNPO市民フォーラムが編集・発行し、無料で配付します。

この法人は地域住民と行政に対して取材活動を行い、報道によって市民の公共参加を推進し、地域内のメディア事業を行つて、市民のコミュニケーションを向上させることを目的としています。地域情報紙「市民プレス」はNPO市民フォーラムが編集・発行し、無料で配付します。

090(3048) 5502 編集 原宛にどうぞ

川越市

「蔵造り一番街」

まちを活性化する 歴史的な景観



「時の鐘」の通り

地方都市の空洞化が目立つこのごろだが、歴史を保存する道を選択した川越市は、まち活性化のモデルとして全国的に注目されている。

アクセスについて

東上線、またはJR川越線、埼京線の「川越駅」で下車すると、改札口の目の前に「マール」の「観光案内所」がある。ここで川越の歴史や街を歩くためのコースを載せた詳しいマップ(無料)を入手する。あらかじめこの案内所に電話(049-225556)すれば、相談のつてくれる。また西武線を利用することも可。ただしこの場合には「本川越駅」で下車。

まずハイライトの「蔵造り一番街」を訪問しよう。

東上線またはJRの「川越駅」西口を出て、目の「アトレ」ビルの前、東上線の下り線との間を数十分進む。信号を

渡ると「クレアモール」(目印は右角の「丸井ビル」)に入り、北に進む。この通りは自動車の入らない細い道だが、両側には、モダンなお店が並ぶ。間もなく右側には「丸井百貨店」があり、古い街はまだ先だが、この通りを歩いて飽きることはない。さて歴史的な地点に近づくにつれ、家並みがクラシックになってゆく。七福神で名高い、連雀町の「蓮馨寺」に立寄りてもよい(ここまで徒歩約15分)。

このあたりは「大正浪漫通り」と呼ばれ、間もなく右角に国の登録有形文化財「商工会議所」が見えてくる。この通り(松江町)を右に行くと蔵造りの建物が散見されるが、左に曲がると、自動車の通行が激しい中央通り(西武線「本川越駅」前を通る大通り)に入る。

ここ(仲町交差点)からいよいよ「蔵の町並み」となる。この先「札の辻」まで(蓮馨寺から徒歩約15分)、重厚な土蔵が並ぶ国の「重要伝統的建造物保存地区」だ。1999年に国の指定を受けた。因みに町並み保存地区としては、ほかに函館のれんが倉庫群、神戸の洋館がある。数少ない貴重な遺産である。右側に山崎美術館(有料、埼玉りそな銀行(国の登録有形文化財)、服部民俗資料館、路地を入ると「時の鐘」、さらに大沢家住宅(国重要文化財)などが並ぶ。左側には、見事な鬼瓦を載せた黒塗りの蔵造り商店が続く。蔵造り資料館、川越まつり会館(いずれも有料)にも入ってみよう。まつり会館には、秋の川越まつりのハイライトである山車が陳列されているが、その豪華な美しさには、息を飲む。まつりの映像も見せてくれる。



松江町の通り お茶の「亀屋」



クレアモール



黒い土蔵に載せられた鬼瓦の迫力



埼玉りそな銀行(旧八十五銀行)



菓子屋横町で



「服部民俗資料館」かつては履物と薬種商 屋号は「山新」

い。この川越では、明治26(1893)年の大火のあと、耐火建築として蔵造りが注目され、数多く建築された。江戸時代のものとは比べると、厚い黒の漆喰の壁、大きな鬼瓦がどっしりと重く、派手な姿になっている。そこで川越の一番街では、江戸と明治が交錯した、類似希な景観を作り出した。「小江戸」という言い方が最近では定着しているが、ある意味では江戸以上と言ええるかもしれない。

川越の魅力は「蔵造り一番街」だけではない。もともとと沢山あつて尽きることはない。川越城「本丸御殿」、江戸城から移築した徳川三代将軍「家光」誕生の

間や五百羅漢で著名な「喜多院」などの史跡をはじめ、近代的な市立博物館、歴史博物館などなど、枚挙にいとまがない。しかしどうしても急いで回ろうという方のためには、シャトルバス、小江戸巡回バス、東武バス(1日フリー乗車券もある)が用意されている。至れり尽せりである。参考書は他にもある。例えば、「川越見て歩き」井上浩編、幹書房。「川越の今昔」第一、二集、龍神由美著、英文付、幹書房。